

氏 名：持田 恵理

学 位 の 種 類：博士（看護学）

学 位 記 番 号：甲第 191 号

学位授与年月日：2020 年 3 月 10 日

学位授与の要件：学位規則第 4 条第 1 項該当

論 文 審 査 委 員：主査 川上 千春（聖路加国際大学准教授）

副査 萱間 真美（聖路加国際大学教授）

副査 麻原 きよみ（聖路加国際大学教授）

副査 小此木 久美子（群馬大学非常勤講師）

論 文 題 目： うつ症状を有する高齢者の包括支援プロジェクト

#### 博士論文審査結果

本研究は、〇町の自殺死亡率の高い高齢者に焦点をあて、高齢者との接点の多い住民に対してゲートキーパー教育を行うこと、またその住民がうつ症状を有する高齢者を保健スタッフに相談するよう勧めること、さらに看護師・保健師がうつ症状のアセスメントを行い、医療機関等に紹介するといった、うつ症状を有する高齢者が医療機関に結び付くシステムを構築する実装研究である。

本研究の目的は、〇町のうつ症状を有する高齢者の紹介システムを構築し検証することであり、達成目標を 2 点あげている。1 つ目は、〇町の住民に対する高齢者のうつ症状の認識を高めること、および看護職のうつ症状に関わるアセスメントの均一化を図る取り組みの効果を評価することである。2 つ目は、〇町の住民へのゲートキーパー教育と看護職のアセスメント技術、及びアセスメント票の効果について評価することである。本プロジェクトにおいてゲートキーパーとなる住民は、定期的に高齢者と接点を持つ介護予防サークルにて活動している 2 団体の介護予防サポーター（n=14）と、健康づくり課所属（n=6）と地域包括支援センター所属（n=4）の看護師・保健師が参加者となり、QI サイクルを 4 回実施した。質改善における QI は、Reach（浸透）、Fidelity（忠実度）、Acceptability（受容性）を住民及び看護師・保健師による質問紙調査から 1 か月ごとに測定し、Feasibility（実行可能性）、Sustainability（持続可能性）をフォーカスグループディスカッションで測定をした。その結果、住民に対する高齢者のうつ病の認識は高まったが、看護職が使用するアセスメント票の利用機会がなく、医療機関へ紹介するシステム構築まで至らなかった。しかし相談時にアセスメント票を保持することで看護師・保健師の安心感、自信が高まり、組織の風土、体制にも変化をきたすまでに至った。

審査では、QI サイクルを 4 回実施した際の反応や介入内容が明確になるように、図で可視化、焦点化し、実装アウトカム指標で伝えたいことを記載すること、対象となった住民や看護師・保健師の特性を詳細にすること、副次的な効果がみられているため、特に組織の変化について詳細に記述すること等が指摘され、すべての修正が適切に行われたことを全審査員が確認した。

以上により、本論文は、本学学位規程第 5 条に定める博士（看護学）の学位を授与することに値するものであり、申請者は看護学における研究活動を自立して行うことに必要な高度な研究能力と豊かな学識を有すると認め、論文審査ならびに最終試験に合格と判定する。